

広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	ロボット支援前立腺全摘除術における感染性骨盤内リンパ嚢腫の検証
研究責任者 (所属科名)	泌尿器科 主任部長 三田耕司
本研究の目的・意義	<p>ロボット支援下前立腺全摘除術 (Robot Assisted-Radical Prostatectomy: RARP) は 2002 年に報告されたが、本邦でも 2012 年に保険収載され、すでに前立腺全摘除術の低侵襲手術として主流になりつつある。拡大した術野の共有が可能であることに加え、安定した 3D 視野による観察が可能であり鉗子の操作性も高い。過去の報告では RARP の制癌効果は開放手術 (Open Radical Prostatectomy: ORP) に比較して同等とされる。</p> <p>一方、限局性前立腺癌に対する拡大リンパ節郭清の明らかな治療的意義は現時点では未だに不明であるが、日本泌尿器科学会におけるガイドラインでは中～高リスク群に対して骨盤内リンパ節郭清が推奨されている。骨盤内リンパ節郭清による周術期の合併症には周囲血管や神経損傷などが挙げられるが、術後の感染性骨盤内リンパ嚢腫 (Infected pelvic lymphocele: IPL) も時に対応に難渋する合併症の一つである。今回、低侵襲手術の一つである RARP の術後 IPL について当院で経験した症例の検証を行い、その予測因子について詳細な検討を行う。</p>
調査方法・調査期間	2010 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までに安佐市民病院泌尿器科で膀胱腫瘍に対し経尿道的手術を受けられた方の情報を調査します。調査期間は 2018 年 6 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までです。
該当資料・データ	<p>★対象となる患者様</p> <p>2016 年 1 月 1 日から 2017 年 12 月 31 日の間に当院でロボット支援前立腺全摘除術を施行され術後 3 ヶ月以上の経過観察を行った患者さん。</p> <p>★利用する情報</p> <p>電子カルテに記載のある診療記録、検査データ、画像を利用します。</p>
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会・学術論文で発表を予定し

	ていますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
共同研究機関	なし
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	広島市立安佐市民病院 泌尿器科 主任部長 三田耕司 電話：082-815-5211 (代表)
備考	

広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ